木を植えています
私たちはイオンです

ミニストップ 環境・社会報告書2003

2003 MINI STOP Sustainability Report

ソフトクリームの売上金から寄付をしています

「花の輪運動」を続けています。

ミニストップでは毎年、全国の小学校に花や木の苗を贈っています。自然や命の尊さを未来を担う子供たちに伝えたいと1991年から(財)花と緑の農芸財団の活動に協賛を始めて12年目になります。2002年度は2,668校の応募の中から抽選で452校へ贈り、贈呈校数の累計は2,587校になりました。

この「花の輪運動」は、日頃ミニストップをご利用いただいているお客さまからの善意の募金で成り立っています。2002年度からは、ミニストップ(株)も、毎週土曜日のソフトクリーム売上金の1%を寄付し始めたため、より多くの学校へ贈ることができるようになりました。

店舗のマネージャーが小学生と一緒に贈呈した花の苗を植える様子

2002年度ハイライト

ミニストップはこんな活動をしています。

ISO14001を認証取得しました。

これまで環境に対してさまざまな取り組みを行ってきましたが、さらに確実に推進していくために、本部でできること、店舗でできることを改めて考えました。それをまとめたミニストップの環境マネジメントシステムは、その仕組みや継続性が認められ2003年3月27日に環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001を認証取得しました。これからも一人ひとりが自分の仕事の中で改善できることを探していきます。(→P20)

店舗での審査風景

契約農家での収穫風景

「減農薬栽培米」にこだわっています。

ミニストップでは、弁当やおにぎりをお客さまに安心して食べていただくために、1997年から減農薬栽培米に切り替えています。2002年12月からは、契約農家で「減農薬栽培米」が育つ様子やQ&Aなどをウェブサイト*でご紹介しています。2003年8月頃には米の産地表示も始める予定です。その後もさらに詳しい産地の情報を公開するよう取り組んでいきます。(→P10)

＊URL　http://www.ministop.co.jp/gennoyaku/index.html

開店した店舗で学生と意見交換（写真提供：朝日新聞）

「武蔵野大学店」が開店しました。

2002年6月6日、武蔵野大学（旧：武蔵野女子大学）*のキャンパス内に「ミニストップ武蔵野大学店」を開店しました。2003年春からは、環境学科のプロジェクトや授業もお手伝いします。ごみの減らし方、処理方法、環境に負担の少ない商品の開発など、店や学内での実験も行う予定で、産学連携型コンビニとして注目されています。

＊武蔵野女子大学は2003年4月1日から武蔵野大学に変わりました。

ミニストップ環境・社会報告書2003

2003 MINI STOP Sustainability Report

目　次

加盟店オーナーと社長との座談会 ……3〜4
社長メッセージ ……5
　地域に根ざしたコンビニエンスストアを目指して
ミニストップはこんなコンビニです ……6
ミニストップをより良くするために ……7〜8
おにぎりの一生 ……9
　米作りからお客さまにお届けするまで
商品の取り組み ……10〜12
　食の安全 ……10
　グリーン商品 ……11〜12
店舗の取り組み ……13〜15
　省エネルギー・省資源 ……13
　廃棄物の削減 ……14
　環境に配慮した店舗づくり ……15
物流の取り組み／地震対策について ……16
教育・啓発 ……17
社会活動 ……18
環境マネジメントシステム ……19〜20
第三者からのご意見 ……21
会社概要 ……22

●環境会計はウェブサイトで公開しています。
http://www.ministop.co.jp/kan.html

●編集方針

1. 店舗をご利用されるお客さまに、ミニストップで取り組んでいる環境・社会活動を紙面にて紹介しています。さらにウェブサイトには、詳しい内容やデータを掲載しました。
2. お客さまとのより深い双方向コミュニケーションを目指して、お客さまからのご意見・ご質問に対する回答を、アンケート用紙の裏面を利用して掲載します。
3. できるかぎり定量表現に努め、真摯な情報公開を行います。

●新たな取り組み

主に環境分野を網羅していますが、サステナビリティレポートを目指して、できる範囲から掲載しようと試みました。「製品責任（GRI*ガイドラインのPR1顧客の安全性）」について掲載しています。

＊GRI（Global Reporting Initiative）：環境面だけでなく社会性・経済性を含めた報告書作成を世界的に標準化しようと提唱する国際団体。UNEP（国連環境計画）をはじめ、世界中のサステナビリティレポートに取り組む団体・個人によるマルチステークホルダー形式でガイドラインを作成・発行している。

●報告概要

1. 対象期間　2002年3月1日〜2003年2月28日
（当社2002年度に該当します）
2. 対象範囲　ミニストップ株式会社および加盟店。
なお、一部記載内容においてはミニストップ株式会社とエリアフランチャイズ契約を結んでいる国内の以下の加盟店も含まれます。

・エヌ・ビー・ジー・エムエスネットワーク株式会社（青森県・岩手県）
・ミニストップ近畿株式会社（大阪府・奈良県）*1
・ジェイアール四国エムエスネットワーク株式会社（香川県）
・エムエス九州株式会社（福岡県・佐賀県・大分県）*2

＊1：ミニストップ近畿（株）は2003年3月1日にミニストップ（株）と合併しました。
＊2：エムエス九州（株）は、（株）ルマックスとミニストップ（株）が共同出資し、2002年6月1日に設立した連結子会社です。

加盟店オーナーと社長との座談会

日頃から環境意識が高く地域との関わりも大切にされている加盟店オーナーに集まっていただき、それぞれの店舗での取り組みや、これからのミニストップについて、率直な意見交換を行いました。

（この座談会は2003年1月29日に実施しました）

ミニストップ株式会社　代表取締役社長
横尾　博
普段からマイ箸を持ち歩いています。ミニストップでも割り箸の削減に力を入れていますし、私も「できることからひとつずつ」を実践しています。

横尾　『環境・社会報告書』を5月に発行します。毎年いろいろな切り口で情報公開をしていますが、今回は特に加盟店オーナーさんのご意見や普段お店で実行されていることなどを紹介して、ミニストップ全体に輪を広げていきたいと思っています。本部としてもこれまで以上に現場の声を聞いて、環境にやさしい経営に役立てていきたいので、辛口の意見もどんどん出して下さい。今日はよろしくお願いします。

ごみと省エネルギー

海東　ずっと地域のごみ拾いを続けています。従業員と話をしながら一緒にやっていますので内部のコミュニケーションもとれますし、お客さまから「大変ですね」と声をかけられることもあって、地域のお役に立っているという実感を皆で共有しています。

君和田　ごみには悩んでいます。ごみ箱からあふれるほど量の多いこともあり、お客さまを含め近隣の皆さまに不快感を与えないよう気を配っています。また、店舗周辺のマンションを中心に清掃も行っています。省エネとごみ削減のために従業員と一緒にアイデアを出し合って実行していますが、自分を含めて“小さなことの積み重ねが大切だ”と実感しているところです。

伊藤　私は5店舗を統括していますが、店周辺のごみ拾いは全店で開店以来ずっと続けています。ごみの問題ではお客さまからの持ち込みが多いことに悩

佐屋町店（愛知県）　統括オーナー
伊藤　隆規
ミニストップを始めて約7年。もうすぐ6店舗目がオープンします。店の屋根に太陽光発電をつけたいと思っています。

んでいます。省エネでは、CO_2問題が気になるので店の屋根に太陽光発電をつけようと計画中です。地球環境のために何かやりたいとずっと思ってきましたし、初期費用はかかっても20年計画で考えると少しだけプラスが出ると試算しています。

嶋田　私の店でも最近、周辺からの持ち込みごみが増加して困っています。テレビやバッテリーなどを車で持ってきて置いて行かれることもあり本当に困ります。省エネの面では、店舗の構造上の理由で光熱費がかかるので、従業員にも協力してもらって温度管理に気をつけています。

山﨑　私も置いていかれるごみには困っていますが、自分の店の1キロぐらい先にミニストップのごみが捨ててあるのを見つけた時には心が痛みましたね。私だけでなく家族も含めて、見つけた時には必ず拾うようにしています。

横尾　ごみと省エネはコンビニ業界共通の悩みでもありますね。本部でも店舗から出るごみの削減に取り組んでいます。特に生ごみ処理については情報を集めて検討を続けていますが、残念ながらコンビニ業界での決定打はまだありません。でもそう言っているだけでは何も改善されないので、今年は少しでも効果が出せるように20店ほどで実験を始めます(→P14)。CO_2削減については、コストの削減にもつながることですし、他社と共同実験をするなど力を入れています(→P13)。環境対策は皆が自分の仕事の中で取り組んでいくもの。今年はISO14001の認証取得の過程で、改めてそう思いました。

地域の皆さまとの関わり

山﨑　私は「地域のお客さまといかにつながっていくか」を第一に、従業員の接客を最重要視しています。それから、先日『花の輪運動(→P1)』で実際に小学校へ行ったので、その時に撮った写真を学校へ送り、店にも飾りました。多くの方に

松伏赤岩店（埼玉県）　統括オーナー
山﨑　猛
ミニストップを始めて3年半。町内の定期的なクリーン作戦（ごみ清掃）に積極的に参加しています。

喜んでいただけましたし、活動を知ってもらう良い機会だったと思います。

伊藤　私の店では中学生の社会体験を受け入れています。まずごみ拾いから始めてもらって、トイレ掃除、看板掃除など、2日間で仕事の厳しさも感じてもらうようにしています。

山﨑　私も中学1年生の社会体験を受け入れることがありますが、最も大事な時期だと思うので挨拶の大切さを知ってもらうよう心がけています。他にも年に1回“車椅子体験”を行っています。

藤沢宮前店（神奈川県）　オーナー
嶋田　誠二
ミニストップを始めて7年半。エコバッグをもっと広く浸透させるためにはどうしたら良いか考え続けています。

嶋田　私は今、地元のシルバーセンターへ2～3時間の掃除を依頼しようと自治体に相談しているところです。

横尾　それは良いですね。お互いに利益があって社会的にも良く、地域に喜んでもらえる取り組みでしょう。

石岡村上店（茨城県）　オーナー
海東　理市
ミニストップを始めて2年半。店舗周辺のごみ拾いを定期的に続けています。そのせいかごみも減ってきました。

海東　地域のためにもミニストップ全体のイメージアップのためにも、今は各店で独自にやっている清掃活動を全店同じ日に一斉にやってみてはどうでしょうか？

横尾　そうですね。最初から全店一斉は難しいかもしれませんが、できることからやっていきたいですね。

今後ミニストップで取り組みたいこと

横尾　商品面では、減農薬栽培米をはじめとして現地に足を運んで安心・安全を確認していることを、ウェブサイトなどを使ってお知らせしていきたいですね(→P10)。お客さまに安心して買っていただくために食品のアレルゲン物質表示も推進していきます(→P10)。文具などの消耗雑貨についても、もっとグリーン商品に替えていくように取り組みを続けていきます(→P11～12)。

嶋田　私はぜひミニストップで独自のエコバッグを作って欲しいと思っています。大手スーパーなどでも取り組んでいますが、なかなか普及しませんよね。デザインや価格が問題ではないかと思うのです。私の店で独自に販売してみたこともありますが、ミニストップとして取り組むことを社長にお願いしたい。もし売れなかったとしても、皆で意見を出し合って取り組むことが大事だと思います。

君和田　私はミニストップでマイ箸(→P14)を売ってみてはどうかと思います。社長も持っていらっしゃるそうですね。いずれ定着すると思うので先駆けてマイ箸の関連グッズに取り組めば、社会的な啓発にもなると思います。

嶋田　エコバッグもマイ箸も「これで利益を」と思わずに、宣伝費と考えてやってみてはどうでしょう？

山﨑　あえてミニストップを前面に出さずに環境のために広く普及させる目的に絞ると良いでしょうね。

伊藤　私も賛成です。広く知ってもらうためにデザインを募集してみるのも面白いと思います。

横尾　開店の時に粗品として配るという方法もありますね。店内販売では買ってもらえない人にも手渡せて良いかもしれません。

船橋山野町店（千葉県）　オーナー
君和田　徹
ミニストップを始めて8年目。店は1kmに9軒のコンビニが並ぶ激戦区にあります。ごみ削減を常に考えています。

君和田　私はミニストップに“啓発活動のできる企業”であって欲しいと思っています。環境問題では特に他チェーンに先駆けて取り組んで欲しいと心から願っています。

横尾　私も啓発していくことは大事だと思います。それに、今日のように個々の店舗の取り組みを情報交換したり、意見交換をすることは、ミニストップ全体の向上になりますね。今年はそういう場を設けることにも力を入れていきます。今日は皆さん、どうもありがとうございました。

座談会の詳しい内容はウェブサイトでご覧いただけます。　http://www.ministop.co.jp/kan.html

社長メッセージ

地域に根ざした コンビニエンスストアを目指して

いつも持ち歩いている
マイ箸です

コンビニエンスストアの社会的責任

コンビニエンスストアが便利さだけを提供する時代は終わりました。これからは経済的活動と、社会的な側面、環境的な側面、これを企業活動の3つの柱にしていかねばなりません。それぞれが相反するものではなく、適合していくことが必要です。特に社会的責任においては、単に社会への貢献活動だけでなく、フランチャイズ事業として、他の企業とは少し違う責任があると考えています。各加盟店がしっかり自立して繁栄するようバックアップしていくことも本部の重要な責任です。

店舗と一緒に地域への社会貢献を

もう一点、小売業としての責任もあります。原点が小商圏の生活密着型の店ですから、商売とは別に、地域との関わり合いを大切にして、身近に感じてもらえるようなチェーンにしていきたいと思っています。昨年から情報の共有化と水平展開にも力を入れており、店舗独自に行っている取り組み事例を情報交換しています(→P17)。お客さまに喜んでいただけることをミニストップ全体で取り入れるよう、仕組みづくりをしているところです。小さな子供からご高齢の方まで、気軽に立ち寄ってもらえるような地域に根ざしたコンビニエンスストアでありたいと思います。韓国やフィリピンなどアジアへの出店も順調に伸びていますので、地域ごとに必要とされる役割を、あわせて考えていきます。

「おいしさ」「安心」「旬」

安心・安全な食を提供することにもこだわり続けています。海外からの仕入れでも現地まで足を運び、安全なものであるかのチェックだけでなく、その地域の環境に悪影響を与えていないか、社会的・倫理的に問題はないか確認しています。新規商品ではこれまで以上に環境負荷にも配慮して「おいしさ」「安心」「旬」をキーワードにした商品を提供していきます。

環境経営へ向けて

私たちが環境へ与える影響は認識していましたが、これまでは数値での把握が完全ではありませんでした。しかし、ISO14001の認証も取得しましたし、これからはさらに環境負荷を減らしていけるよう、現状を正確に把握し、数値目標を立てて改善していきます。多くの場合、それがコスト削減にもつながると思いますので、今年は“環境経営”へ向けて大きく前進する年だと考えています。

ミニストップ株式会社　代表取締役社長

横尾　博

ミニストップの経営ビジョン

ミッション
- ミニストップはお客さま一人ひとりの毎日の暮らしに健康、安心、便利をお届けします。
- ミニストップはコンビネーションにより差別化し、独立を志す人々とともに成長、繁栄を目指します。

ビジョン
- 21世紀はミニストップの時代。
- 国内外でクオリティNO.1のおいしい便利なコンボストア、ミニストップブランドを確立する。

バリュー
- お客さま第一
- 現場主義
- 人間尊重
- そして、楽しく
- 変化への対応
- 地域との共生
- 公正（Fairness）

詳しい内容はウェブサイトでご覧いただけます。　http://www.ministop.co.jp/kan.html

ミニストップはこんなコンビニです

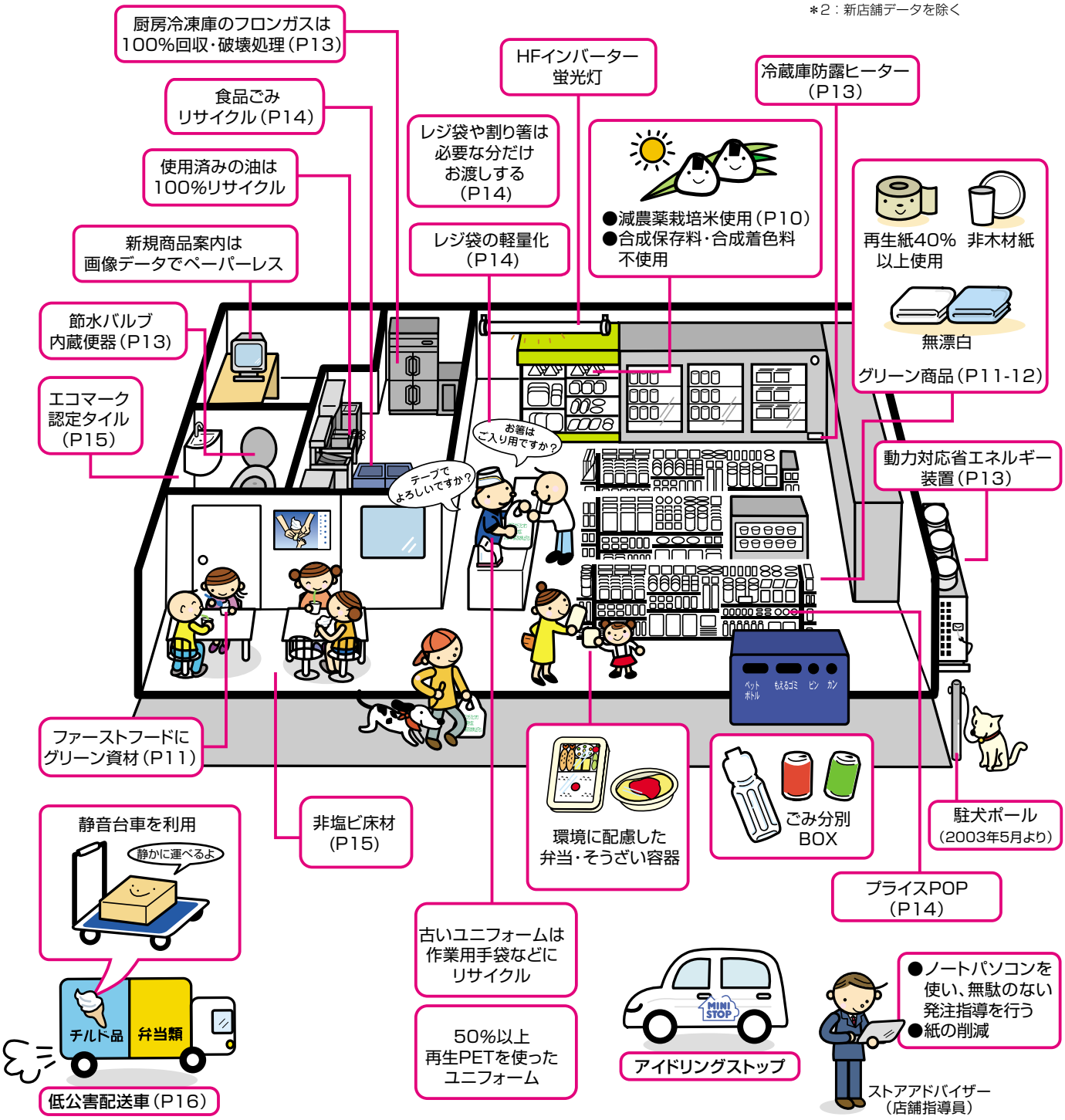
ミニストップはコンビニエンスストアの中でファーストフードが買えるユニークなコンボストア*。
店内で調理をしているので、お客さまに「できたてのおいしさ」をお召しあがりいただけるのが特長です。
その反面、電気や水などの使用が増えるため、環境負荷を減らす努力を続けています。
直接お客さまの目にふれる工夫だけでなく、普段はご覧いただけないような工夫もたくさんあります。
「できることからひとつずつ」これからも小さな工夫、大きな工夫を積み上げて、
人にも環境にもやさしいコンビニエンスストアを目指します。

＊コンボストア：コンビニエンスストアにファーストフード店の要素をプラスした店舗のこと。ミニストップによる造語。

一般的なお店の平均値	
店舗面積	150m²
取扱商品数	約3,000
1日あたり来客数*1*2	827人
1日あたり売上高*1	463千円

＊1：2003年2月期
＊2：新店舗データを除く

ミニストップはこんな環境配慮をしています。

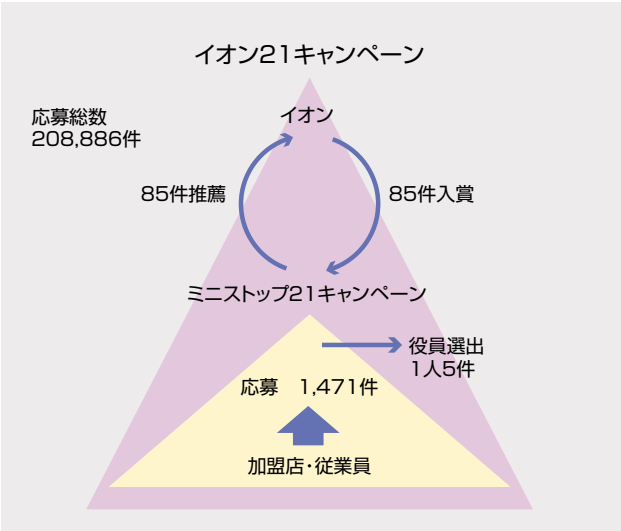


ミニストップをより良くするために

ミニストップ21キャンペーン

ミニストップでは毎年「ミニストップ21キャンペーン」として従業員からの改善提案を募集しています。2002年度はその範囲を拡大し、加盟店のオーナーやアルバイトなど、日頃お客さまと直に接している方々からも広く意見を募集しました。

寄せられた提案は1,471件。その一つひとつが、それぞれの立場で考えられた大切な「現場の声」です。その中の85件はイオンが提案を募集する「イオン21キャンペーン」で表彰されました。



ミニストップ21キャンペーンの入賞提案紹介

部署名は応募当時のものです。原文から抜粋しご紹介しています。

イオン21賞「子供たちの夢をかなえる」

地区商品部　近畿地区　　渡辺　久樹さん

7月29日の日本テレビ系スーパーテレビ「少女は絵本を残した」の中で、ボランティア団体の「メイクアウィッシュ」が紹介されていました。活動内容は、3歳～18歳未満の難病の子供たちの夢をかなえるというものです。番組で取り上げられた少女の場合は、絵本を出したいというものでした。結局少女は亡くなってしまったのですが、具合が悪くなってからスタッフが絵本の校正を見せに来たとき、苦しそうにしていた少女が急に元気になったように見えたことに驚き、そして感動しました。人は希望を持っていれば想像以上の力を発揮することができるとわかりました。

この団体は、あくまでその対象が難病の子供たちです。しかし病気以外の子供たちでも夢があるのに実現できないでいる子がたくさんいると思います。イオンとして、これからの将来を託す子供たちの夢を実現することで感動を与え、少しでも喜ぶ顔が見たいと思います。

方法としては、店頭にポスターを掲示して将来の夢や希望についての作文を募集し、回収箱を設置すれば良いと思います（インターネットでも募集）。できれば一年間に10人位の子供たちの夢をかなえてあげられればと思います（ちなみに「メイクアウィッシュ」では10年間で350人以上の夢を叶えているそうです）。

イオン21審査員特別賞「お客さまの声を聞きに19（行く）日」

人事部　　小川　雅弘さん

「お客さま第一」これはイオンの基本理念の原点である。しかし、私たちはこの「お客さま」を原点に行動できているであろうか？まず、いち早く改善していかなければならないことはお客さまの声を活かすことである。簡単に言うと「お客さまからの声」を受身ではなく、自らお客さまにお伺いに行くということだ。実際、クレームを言って下さるお客さまはほんのわずかである。しかも本当にお客さまにとって納得のいかない時にしか言って頂けないのが現状だ。

そこで私の提案は「毎月19日はお客さまにご意見を聞きに19（行く）日」と設定。ミニストップ全社員ならびに全加盟店オーナー、マネージャー、従業員が毎月19日にはお客さま宅、事業所、大学、病院、お取引先に訪問もしくはお取引先にお電話でお聞きする。また、19日にお客さまの声を聞きに行った翌月の19日には新たなお客さまの声を聞きに行くのと同時に、先月お聞きしたお客さまの声の改善などを報告する。最初は抵抗があるかもしれないが、ミニストップ全店全社員が一丸となり取り組めば、お客さまからの信頼を得られることは間違いないし、お客さまにとって一番身近なコンビニになるに違いない。その積み重ねが、商品開発やサービスへも結びつくであろう。

イオン21審査員特別賞「こんな時にもチョット便利なギフト」

矢向駅前店　マネージャー　　國分　志津子さん

以前、香典返しに肌掛けなどを送りたいので依頼できないかと注文を受けました。500余りのご注文だったため、なんとかならないかと本部に問い合わせましたが「受けられない」とのことで、泣く泣くお断りしました。また、他のお客さまからは、快気祝いとしてバスタオルを20枚贈りたいとの注文もありましたが、同様にお断りすることになりました。お客さまからは「お中元やお歳暮時にはできるのになぜ普段頼みたいときにはできないのか」という苦情を受けました。

イオン内で、このような便宜は計れないものでしょうか？このような注文はめったにないかもしれませんが、デパートなどに足を運ぶのが大変なお年寄りや、身障者、時間のない忙しい方にも大変喜ばれると思います。パンフレットなど（予約弁当のような）レジカウンターに置いておけるようなものがあれば、チョット贈りたいと思ったときにすぐに頼めて便利だと思います。

イオン21提案賞「ミニストップは町の何でも屋作戦」

あすみが丘大椎町店　　砂永　幸子さん

環境保護に取り組むミニストップが、コンビニとして使用するお弁当のパックやラップ、レジ袋、ごみ袋などを燃やしても有害物質を排出しない非塩ビにすることはもちろん、さらなる取り組みとして、

●フライヤーの油の再利用

1. 廃油から固形燃料を作り、ミニストップブランドとして販売する。
2. 廃油から作る石鹸キットを作って夏休みの自由研究課題の教材にしたり、学校などとタイアップして授業に取り入れてもらい、子供たちのリサイクル教材に活用する。

●店舗で使用する電力をソーラー発電に変える

いきなり全店舗から改装していくには時間がかかるので、まず外の看板やソフトスタンドなどから始めていく。あまった電力を電力会社へ販売したり、災害時に備え自家発電装置を装備して地元に協力する。

地球に住んでいる人間として、自分たちが住んでいるこの地球を大事にする。

寄せられた提案の
一つひとつに
役員が回答しています。

私たちは実行することを約束します

専務取締役
人事総務・管理部門担当兼
マーケティング部門担当
井上　雅之

表彰された提案とは別に「ミニストップ21キャンペーン」の中から、私たち役員がそれぞれの担当部署で「これは今年中に実行するぞ」と思う提案を選びました。その一部をご紹介するとともに、必ず実行することをお約束します。

ミニストップ21キャンペーンの役員選出提案紹介

部署名は応募当時のものです。原文から抜粋しご紹介しています。

選出

専務取締役（人事総務・管理部門担当兼マーケティング部門担当）
井上　雅之

「ボランティア活動の募集」

八潮木曽根店　マネージャー　　篠宮　千夏さん

現状ミニストップでは花の輪運動やカンボジア募金などをしています。人の役に立つ大切なことだと思います。私はもっと広くお客さまや従業員からボランティア参加希望者を募り、実際に参加できる機会を増やしたらどうかと思います。「機会があればやってみたい」と思っている人はたくさんいるのではないかと思います。そのような人たちに参加の機会を与える場をイオンやミニストップでつくっていただくことができればいいなと思います。

選出

常務取締役（システム本部・メディアサービス本部担当）
田中　茂

「ペーパーレスの促進」

東静岡神奈川営業部　　三須　基至さん

営業日報や仕入れ伝票などのペーパーレス化を促進する。ペーパーで保管義務があるのならば、それをフロッピーやCD-Rなどに保管する必要性を追求していく。

選出

常務取締役（商品部門担当）
郷田　庸憲

「私もお客さまの立場 ―和惣菜の提案―」

稲沢赤池店　マネージャー　　川合　昌子さん

ミニストップで働き始めて10年以上になりますが、オープン当初から常に思っていることは40代独身男性やヤングママのお客さまが多いこと。その方々がお弁当をお買い上げになるのを見て健康面を案じ、「ふるさとの味やおふくろの味のお惣菜を手作りして販売したい」とずっと考えてきました。例えば、肉じゃが、きんぴら、おひたし、サバの味噌煮など数え上げればきりがないほどです。販売も量り売りや一個売りなど、いろいろな方法があると思います。高齢化や少子化が進み、パート勤めに忙しいお母さん方やご老人などは食事を作る十分な時間も少なく、食事が手抜きされがちです。そんな中、栄養バランスを考えたお惣菜があれば安心して買いにくることができるのではないでしょうか。

選出

取締役本部長（営業本部担当）
阿部　信行

「店舗外観のキレイさ、清潔さを維持する体制づくり」

千葉多摩開発部　　宮本　欣治さん

ファーストフードが武器のミニストップに対するお客さまの期待は、注文したメニューが清潔に作られ、安心して食べられること。

店舗の外観（ポールサインのサビ、アスファルトや車止めの破損など）が不潔・危険な状態のまま放置されているのであれば、どんなにおいしいメニューを開発しても意味がないと思う。

メンテナンス体制の整備・改善や、営業部予算組みの優先順位の見直しなど、全社を上げて第一優先で取り組んでいきたいテーマと考えたい。
お客さまがどのミニストップ店に行っても気持ちよく入店して頂ける体制づくりから全てが始まる!!

選出

取締役本部長（開発本部担当）
荒川　勤

【自動ドア化】

「高齢者・身障者にやさしいミニストップ」

東海営業部　　金森　哲也さん

高齢者・身障者に対してやさしい街づくりをしている行政は多々あります。そんな行政と協力して（市役所内出店など）出店をしてはどうかと思います。自動ドア・バリアフリーは当たり前。カウンターの高さ・ゴンドラの高さまで踏み込んで、車椅子の方でも取りやすい高さ・車椅子が3台同時にすれ違っても大丈夫な通路幅などを考えて店を設計してはどうでしょうか。お客さま第一・地域密着・いのちを考えた取り組みです。

●●●

自動ドア化の提案は他にも
「高齢化社会に向かっていく中で、コンビニエンスは、地域の情報を収納できる店舗であるというメリットを最大限生かす。高齢化社会に対応し、地域顧客のふれあいにこたえるサービスの提供を目指したい。」
（東京営業部　　岡　啓介さん）

【駐犬ポールの設置】

「ペットの散歩途中に立ち寄れるお店に」

お客さまサービス部　　西　珠恵さん

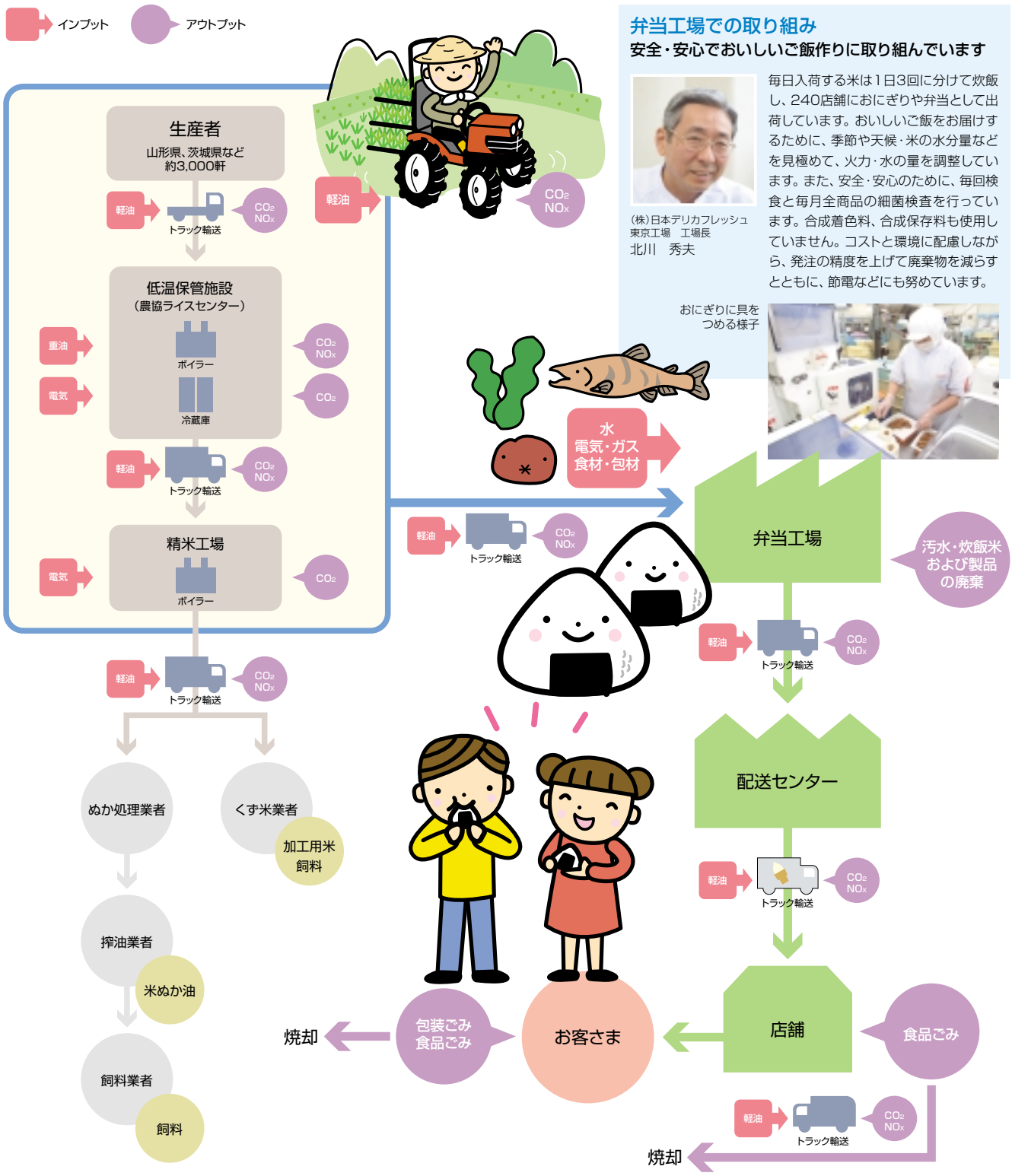
私はペットを飼っていませんが、犬の散歩をしている人を近所でよく見かけます。散歩のついでに買い物をしたくなることも多々あると思いますが、食品を扱っている店内へのペット連れ込みは衛生面で問題です。そこで店の外にペットをつないでおける場所を設置してはどうでしょうか。カフェなどでペットを同伴できる店をＴＶで見たことがあります。ミニストップでも、屋外にペット同伴ＯＫのイートインを設けても良いと思います。広いスペースがある店舗でないと実現は難しいかもしれませんが、喜んでくださる方は案外多いのではないでしょうか。

●●●

駐犬ポール設置の提案は他にも
「わんこもお客さま!?」
（人事部　　武笠　法子さん）

おにぎりの一生

米作りからお客さまにお届けするまで



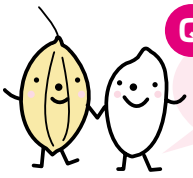
弁当工場での取り組み

安全・安心でおいしいご飯作りに取り組んでいます

（株）日本デリカフレッシュ
東京工場　工場長
北川　秀夫

毎日入荷する米は1日3回に分けて炊飯し、240店舗におにぎりや弁当として出荷しています。おいしいご飯をお届けするために、季節や天候・米の水分量などを見極めて、火力・水の量を調整しています。また、安全・安心のために、毎回検食と毎月全商品の細菌検査を行っています。合成着色料、合成保存料も使用していません。コストと環境に配慮しながら、発注の精度を上げて廃棄物を減らすとともに、節電などにも努めています。

おにぎりに具をつめる様子



Q 減農薬栽培米って？

A 減農薬栽培米とは、その地区で普通に作られている米に比べて、農薬の使用量をおよそ半分以下に減らして栽培された米です。ミニストップでは産地と契約して減農薬栽培米を作ってもらっており、栽培状況の確認などのため、産地や田んぼまで何度も足を運んでいます。

商品の取り組み ①

食の安全

減農薬栽培米の取り組み

●おいしさにもこだわった減農薬栽培米

商品本部　地区商品部
部長
竹本　竜治

環境への負荷を減らしながら、お客さまに安全でおいしいものを提供したいという想いで、減農薬の米作りを進めている農協などとタイアップして、1997年から減農薬栽培米の使用を始めました。現在は全ての弁当、おにぎり、寿司に減農薬栽培米を使用しています。

ミニストップの減農薬栽培米は、農林水産省のガイドラインに従い、通常の米に比べて農薬の使用量が概ね半分以下になっています。農薬を減らすには、害虫や病気に負けない丈夫な稲を育てなくてはなりません。そこで、堆肥を使用するなど化学肥料だけに頼らない健康な土作りに取り組み、しっかりと根を張れるように稲の間隔を広げて栽培しています。こうした生産者の方々の努力によって健康でおいしい米が育っています。

●産地情報の公開を開始

これまで、米の栽培計画、栽培記録の管理・確認のほか、全農による減農薬栽培認定の取得、残留農薬検査、米のDNA鑑定など、品質管理を徹底して行ってきました。そして、さらにお客さまに安心して食べていただけるように、産地情報の公開を始めています。現在は、減農薬の米作りをウェブサイト*でご紹介していますが、生産から流通、販売までの履歴を追跡するトレーサビリティーシステムの導入を進めて、お客さまが米の産地や収穫時期などをウェブサイトから検索できるようにしていく計画です。

これからもお客さまに「安心とおいしさ」をお届けし続けるために、取り組みを積み重ねたいと考えています。

＊URL：http://www.ministop.co.jp/gennoyaku/index.html

遺伝子組み換え食品の取り扱い

遺伝子組み換え食品は、近い将来に発生するかもしれない食糧危機を救済すると言われている一面があります。しかし、人体への安全性や栽培を行う環境への影響については、まだまだ明らかな見解がありません。

ミニストップでは2001年より改正JAS（日本農林規格）法で指定された遺伝子組み換え農産物を、原材料として使わない方針で商品開発を行っています。遺伝子組み換えかどうかについては、商品開発時に原材料品質規格書によって確認しています。

アレルゲン表示の拡大

1999年に成立した改正JAS法によって、アレルギー症状を発症する原因となる食品は、微量であっても表示することが定められました。ミニストップでは厚生労働省が定めている義務表示の5種類と任意表示の19種類、計24種類の全ての食品について、商品ラベルに表示しています。さらにファーストフードでも、義務表示の5種類については2003年度中にミニストップのウェブサイトで公開する予定です。

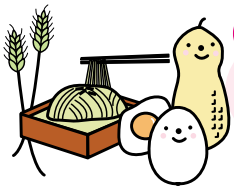
アレルギー原因食品

義務表示の食品	小麦・そば・卵・乳・落花生
任意表示の食品	あわび・いか・いくら・えび・オレンジ・カニ・牛肉・キウイフルーツ・くるみ・さけ・さば・大豆・豚肉・まつたけ・もも・やまいも・りんご・ゼラチン・鶏肉

割り箸の安全性について

厚生労働省は、一部の割り箸から防カビ剤および漂白剤の残留が確認された報告を受けて、防カビ剤などが一定の溶出量を超えた場合に販売の自粛を要請するよう、地方自治体と検疫所に通知を出し、割り箸の監視を強化しています。

ミニストップは、防カビ剤などが検出されなかったことを確認しています。

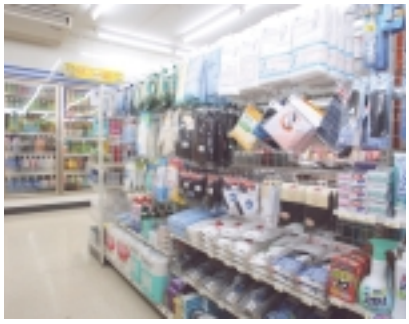


Q アレルゲンって？

A 現在、アレルギー症状を持つ人が急速に増えています。アレルギー症状を引き起こす原因物質のことをアレルゲンといいます。アレルギー体質の人は、花粉やほこり、食物などがアレルゲンとなって、過敏に反応してしまいます。まれに食物などが原因で、生命の危険があるアナフィラキシー反応（嘔吐・血圧低下・呼吸困難などの激しい症状）が起きる人もいますので注意が必要です。

商品の取り組み ②

グリーン商品



ミニストップは、環境に配慮したグリーン商品を毎月3アイテム増やすことを目標に、積極的に品目の拡大に取り組んでいます。2002年度末に品揃えされていたグリーン商品は49アイテム（前年度比5アイテム増）でした。

グリーン商品の基準は以下の通りです。

1. エコマーク認定商品
例：再生プラスチックを使ったボールペン

2. グリーン購入ネットワークの基準をクリアした商品
例：バガス（さとうきびから砂糖を搾った後の残りかす）の使用比率を高めて木材原料を減らしたティッシュペーパー

3. 1と2に含まれないが、既存品に比べて少しでも環境に配慮している商品
例：中の台紙に古紙配合100%の再生紙を使ったパンティストッキング

ファーストフード包装資材の取り組み

ファーストフード商品本部
コーディネーター部
マネージャー
竹下　友啓

以前から、お持ち帰り容器の外側など食品に直接触れない箇所で再生紙を使用しています。2002年度はプラスチック製スプーンの小型軽量化を実現し、ソフトクリームの試食用プラスチック容器をコーンに替えて、ごみも削減しました。2003年度は中華まん袋をビニール製から紙製に変更予定です。店舗でソフトクリームをご提供する時に「スプーンはご入り用ですか」と伺うような運動も展開していきたいと考えています。

ごみの出ない試食用ソフトクリーム

●包装資材
再生紙を使用したお持ち帰り用容器（右奥）。小型軽量化したプラスチック製スプーン（手前）。ビニール製から紙製に切り替えた中華まん袋（右）。

文具・玩具のグリーン商品

商品本部
生活用品＆サービス商品部
辻森　康人

商品の選定基準には品質、機能、価格、ブランドなどがありますが、環境に配慮しているかどうかもその1つです。2、3年前までは環境に配慮した商品は価格が高い傾向でしたが、今ではほぼ同価格で、選定基準においても環境の優先順位を上げています。お客さまに環境対応をお伝えすることも重要と考え、昨年は古紙100%のミニストップオリジナル「履歴書」に新たにエコマークの表示を始めました。玩具もメーカーと話し合いを重ね、環境に配慮したアイテムを提供できるようになっています。今後も積極的に環境配慮型の商品を増やしていきます。

●ミニストップのオリジナル文具
再生紙を使用した履歴書（エコマーク認定商品）。再生紙とでんぷん素材のノリを使った付箋紙。

●ごみ袋付きの花火セット
燃えかすをきちんと捨てていただくことをお客さまに働きかけるためにごみ袋をつけています。

●環境に配慮した玩具
再生PETを使用したトランプと、塩ビから切り替えてEVA*素材を使用したなわとび。素材を変えても性能を落とさないことがポイントです。

＊EVA：エチレン酢酸ビニル共重合体。塩素を含みません。

Q　エコマークって？

A　（財）日本環境協会が商品の製造、使用、廃棄というライフサイクル全体を考慮して定めた基準に基づき、環境負荷が少ないなど環境保全に役立つと認められる商品につけられるマークです。環境から見た商品の情報を提供し、消費者が環境にやさしい商品を選択しやすいようにすることを目的としています。

（財）日本環境協会エコマーク事務局　URL：http://www.jeas.or.jp/ecomark/index.html

家庭雑貨のグリーン商品

商品本部
生活用品＆サービス商品部
五十嵐　哲行

家庭雑貨は便利さが求められる商品が多いので、お客さまが環境面をあまり意識しない分野だと思います。ミニストップは、イオンのオリジナルブランド「トップバリュ」を中心に、環境に配慮した商品の品揃えを拡大していく計画です。「トップバリュ」は安全や環境に配慮しながら、お求めやすい価格に設定した商品なので、ぜひお客さまに知っていただきたいと思います。また、これからは小売業からメーカーに積極的に働きかけて、環境に配慮した商品開発を進めることが必要だと感じています。

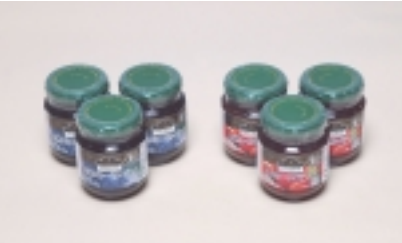
●トップバリュの布粘着テープ
再生紙100%の紙芯を使用しています。グリーン購入法適合商品*。

＊グリーン購入法によって、国などの公的機関は率先して環境負荷の低い物品の調達が義務付けられました。グリーン購入法適合商品とは、グリーン購入法で定められた「特定調達物品目」と「判断基準」に合致した商品です。

●トップバリュの使いきりカメラ
リユース・リサイクルされているイオンのオリジナル商品。

●トップバリュの紙皿、紙コップ
包材には燃やしてもダイオキシンを発生しないポリプロピレンを使用。素材には蛍光顔料や漂白剤を使用していません。

●トップバリュのソックス
陳列フックに紙を使用しています。



●ジャム
トップバリュ「SELECT」のジャム。有機栽培の原料を使用して、有機JAS認証を受けています。

衣料品のグリーン商品

商品本部
H&BC商品部
島袋　嘉之

衣料品はお客さまの肌に直接触れるものなので、健康に配慮すると同時に、環境にも配慮した商品を提供したいと考えています。従来のミニストップオリジナルのタオルを見直して、エコマークの認定基準を満たすタオルを新しく作りました。お客さまに環境にやさしい商品であることをわかっていただくために、エコマークを表示して環境配慮のポイントもご案内しています。その他の商品についてもできることから取り組んで、環境に配慮した商品を増やしていく方針です。今後はミニストップとしてグリーン商品の基準・規格作りをさらに詳しく設定していきたいと考えています。

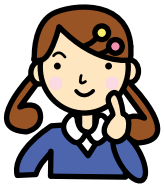
●エコマーク認定のタオルシリーズ
天然素材の綿を100%使用。蛍光増白剤を使用せず無漂白なので肌にもやさしいタオルです。

カタログ予約のグリーン商品

商品本部
生活用品＆サービス商品部
河合　克尚

2001年の狂牛病問題以来、安全な食に対するお客さまの要望は高まっています。トップバリュをはじめとして安心して贈っていただける商品を揃えました。

●タスマニアビーフと赤肉メロン
「安全、安心」を確かめたタスマニアビーフ。有機栽培にこだわった北海道の赤肉メロン。



Q 「トップバリュ」って？

A 安全と環境に配慮した安心な商品を提供するイオンのオリジナルブランドです。生活の基本アイテムの「トップバリュ」、農・畜産物、加工食品の「グリーンアイ」、素材などに特別にこだわった「SELECT」、リサイクル資源を利用した「共環宣言」の4つのブランドを展開しています。

QUALITY AND TRUST TOPVALU グリーンアイ

店舗の取り組み ①

省エネルギー・省資源

CO_2排出量を減らすために、電気消費量の削減に取り組んでいます。

設備の取り組み

開発本部　建設部
設備担当マネージャー
澤田　剛明

ミニストップでは店舗内でファーストフードの調理をしているため電気、ガス、水の消費を減らすことが課題です。加盟店と協力して、環境負荷を減らすと同時にコストの削減も図りながら、省エネルギー、節水などに効果のある機器の導入、実験を進めています。新店舗ではその時点で最新の機器を導入していますが、多くの割合を占める既存の店舗での対策が課題です。これからも積極的に取り組みを進めていきます。

省電力の取り組み

1. 結露防止ヒータ制御装置の導入

冷凍・冷蔵ショーケースの扉に結露防止のためのヒータが常に作動しています。そこで、既存の店舗では温度を計測して自動制御し、節電する装置の導入を2003年度から始めます。実験では、1店舗あたり1年間でCO_2排出量を約4,200kg削減できる大きな効果があります。新店舗では冷蔵ショーケースに、同じ機能を持つセンサー付結露防止ヒータの導入を始めました。

2. 動力対応省エネルギー装置の導入

動力対応省エネルギー装置はエアコン、冷凍機のコンプレッサーを自動で停止・稼動させて消費電力を削減する装置です。昨年度に引き続いて実験を実施。3店舗で実験を行い、電気使用量が多い店舗ではより大きな省エネルギー効果が得られることがわかりました。2003年度から導入を始めます。

3. 電圧調整装置（ミニセーバー）*

これまで電圧調整装置の設置を進めてきました。2002年度は電力料金契約が変更となり、経済的なメリットが薄まったため、新たな導入は中止しました。

設備店舗数とその効果

	2000年度	2001年度	2002年度
設置店舗数	500	547	563
削減した電気総使用量（kWh）	4,693,000	5,134,142	5,284,318
排出抑制したCO_2量（t-CO_2）	1,802	1,971	2,028

＊電圧調整装置は消費電力を削減し、見た目に明るさの変化のない96Vにコントロールするものです。
試算条件：1店舗あたり9,386kwhの電気使用量の削減効果があります。
・ミニストップでは電気法や各地の電力会社に従った電圧調整装置のみを使っています。
・従量電灯の電圧の低い地域で節電効果があまり見込めない店舗、HFインバーターを先に設置した店舗は、電圧調整装置を設置していません。

自動水洗などの導入

新店舗ではトイレとレジカウンターの手洗い器を約50%の節水効果がある自動水洗*にしました。また、節水バルブ内蔵便器も導入。約20%節水効果があります。トイレと事務所には人感センサーを導入し節電も図っています。

＊自動水洗：センサーで水が自動的に制御される水道。

フロンの切り替え・適正処理

「オゾン層破壊物質」であるフロンは、多くの冷凍・冷蔵庫やエアコンの冷媒に使われています。これまでフロン使用量の多い機器を優先し、オゾン層破壊に影響の少ない代替フロンに切り替えを進め、2002年度は厨房冷凍庫の切り替えを終了しました。2004年度には全機器の切り替えを終了する予定です。フロン回収・破壊処理は、行政から認可された専門業者に委託して適正に行っています。

回収・破壊されたフロン量

	2001年度（t）	2002年度（t）
R22（代替フロン）	0.897	2.880
R502（特定フロン）	0.137	0.110

コンビニエンスストア5社による共同実験

開発本部　建設部
部長
来須　治

コンビニエンスストア業界はとても電気消費量が多い業界です。省エネルギーの取り組みを進めていますが、その一方で、店舗の増加によって電気消費量も増え続けているのが現状です。そこで、ファミリマート、サークルケイ・ジャパン、サンクスアンドアソシエイツ、スリーエフ、ミニストップのイープラット*参加5社共同で、電力削減に向けた実験を始める予定です。まずは1店舗あたりの実態を把握するため、立地条件の異なる店舗で空調、冷蔵・冷凍ケース、照明、厨房など機器別に実際の電気消費量を監視、計測し、その後、いかに制御するか工夫していく計画です。5社合計では14,000店を超えるので、電力削減効果も大きなものになると期待しています。

＊イープラット：上記5社によって2000年4月17日に設立された企画会社。

Q 「特定フロン」「代替フロン」って？

A フロンは、エアコン、冷蔵庫、工業用品の生産などに広く活用されてきました。しかし太陽からの有害な紫外線を防ぐオゾン層を破壊することがわかり、1989年から規制されています。「特定フロン」とはオゾン破壊能力の高い5種類で、1995年末に生産が停止されました。「代替フロン（指定フロン）」の13種類は特定フロンの代わりに使われますが温室効果が高く2020年までに全廃予定です。

店舗の取り組み ②

廃棄物の削減

ミニストップ4R

限りある資源を有効に使うために4つの方法で廃棄物の削減に取り組んでいます。

主な取り組み事例

Reduce（削減する）
- 割り箸使用量の削減
- 書類の電子化による紙使用量の削減
- 声かけによるレジ袋の使用量削減

Recycle（再資源化する）
- 廃油のリサイクル
- 店頭でのごみの分別回収
- 東京23区や名古屋市などでのペットボトル回収協力
- コピー、FAXトナーカートリッジのリサイクル

4R

Reuse（再利用する）
- プラスチックコンテナの利用
- コピー用紙の裏面利用
- 社内連絡用に封筒の再利用

Reasonable Treatment（適正処理）
- 廃油やごみやフロンの専門業者への委託による適正処理

マーケティング本部
環境推進部
野口　秀明

生ごみリサイクルの実験をしています

食品の売れ残りや食べ残し、食品の製造過程などから、大量の食品廃棄物が発生しています。2001年には食品リサイクル法が施行され、2006年には食品廃棄物を重量比で20%以上削減することが定められています。

ミニストップでは、1998年から生ごみを堆肥化する実験を行い、検証を続けてきました。処理コスト、作業性、電気使用量の増加などの問題から、実験を拡大するまでに至りませんでしたが、現在これらの問題の軽減が可能となり、2003年4月から営団赤塚駅前店（板橋区）など東京都内の3店舗で新たに実験を始めました。店舗内で販売期限切れ商品などを分別し、生ごみは収集業者を経て処理業者のもとで堆肥化されます。今回の実験では分別作業、店舗の生ごみ保管状況、廃棄量、コストなどを検証する計画です。

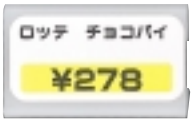
「マイ箸クラブ」が2003年3月からスタート

「マイ箸」とは自分の持ち歩き用のお箸のこと。「マイ箸クラブ」はエコ商品通販サイトのマザーアース・ネットとミニストップが共同で提供する、マイ箸の普及・推進のためのネットワークです。ごみ削減と健康のためにマイ箸の輪を広げようと活動しています。

「マイ箸クラブ」URL：
http://www.mother-earth.ne.jp/myhashi/index.html

プライスPOPの導入による紙の削減

商品の一つひとつに貼られていたプライスシールを廃止して、陳列棚にプライスPOP*を取り付けました。



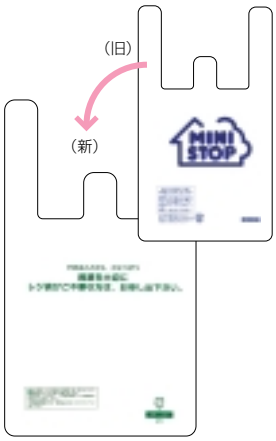
商品棚につけているプライスPOP

プライスシールに使用していた紙を、1店舗1ヵ月あたりの平均で約1.6kg削減することができ、チェーン全体では1ヵ月に2,528kgの削減につながりました。これは約56本分の木材を節約することに相当し、CO_2排出量では548.6kgの削減になります。

＊プライスPOP：商品の値段を書いて棚につける小さなふだのこと

レジ袋の軽量化

ミニストップでは、5種類あるレジ袋の素材をできるだけ薄くし、重量を平均で約10%軽くしました。これは同業チェーンのローソンと同一の製品を共同で仕入れることによって、環境負荷を減らすと同時に調達コストを約5%削減することができました。



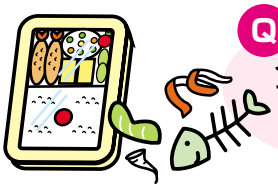
2003年1月から、店舗在庫がなくなり次第、順次切り替えを進めています。

割り箸・レジ袋の削減を推進

お客さまにお声かけをして、必要な方にだけ割り箸やレジ袋をお渡しする「一声運動」を行っています。しかし2002年度は2001年度に比べて1店舗あたりの使用量が増える結果になりました。来店客数の伸びを考慮すると、レジ袋は少し削減できていますが、割り箸は増加しています。2003年度は削減を店舗の共通目標とし、取り組みを強化します（→P19）。

1店舗あたりの割り箸・レジ袋使用数

	2000年度	2001年度	2002年度
割り箸（膳）	57,207	57,554	58,181
レジ袋（枚）	–	227,000	227,633



Q 食品リサイクル法って？

A 食品廃棄物は年間に約1,900万トン。そのうち約900万トンは事業者、約1,000万トンは家庭からの排出です。現在、食品廃棄物の約9割が焼却・埋立処分されていて、ごみの最終処分場の残余年数はひっ迫しています。こうしたごみの発生抑制、再利用の促進を目的として食品リサイクル法が定められました。1人ひとりにごみを減らす努力が求められています。

店舗の取り組み ③

環境に配慮した店舗づくり

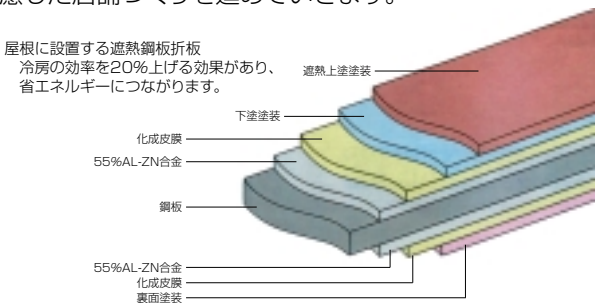
環境に配慮した店舗づくり

開発本部　建設部
建設担当マネージャー
高橋　善彦

ミニストップでは、環境に配慮した部材・什器の導入を積極的に進めています。2001年度に一部の店舗で導入していた、燃やしても有害ガスを出さない非塩ビのオレフィン系床材、エコマーク認定の床・壁用タイル、長期間の使用に耐える人工大理石のレジカウンターなどを、2002年度からは新店舗および改装店舗に導入しています。また、屋根に設置する遮熱鋼板折板などを新たに採用するとともに、店舗の仕様を統一して、全ての新店舗で環境に配慮した部材・什器の導入を始めています。

2003年度には、節電効果のあるフロントサッシのUVカットコーティング、バリアフリーを考慮したリニアモーターの自動ドアなどを導入し、雨水をトイレの排水に利用する「貯水システム」の実験なども始める計画です。

既存の店舗でも、可能な範囲で環境に配慮した部材・什器の導入を進めています。これからも積極的に環境に配慮した店舗づくりを進めていきます。



火山灰を素材とした
完全不燃の
内装ボード

非塩ビのオレフィン系床材

エコマーク認定のタイル
（トイレ、外装床材）

ユニット工法の取り組み

ユニット工法とは、工場内でユニットを製作して建設現場で組み立てる工法です。BOXユニットを組み立てる「エコロユニット工法」と、ユニットパネルを組み立てる「ユニットパネル工法」があり、どちらも現場で発生する建築廃材を削減できる環境に配慮した工法です。また、工期も短縮でき、移設も可能なため、コストの削減にもつながります。

2002年度は40店舗出店する計画でした。しかし既存の店舗で、床の耐久性やエコロユニット工法での結露など問題が発生したため、出店を一時ストップして補修・改良を行いました。出店は19店舗にとどまりましたが、今後も改善を続けながら、出店を継続していきます。

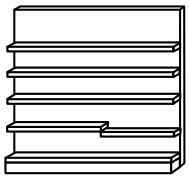
加盟店オーナーインタビュー

エコロユニット店舗を経営して2年が経過しました。同時に経営している在来工法の2店舗と比べると断熱効果が高く、夏・冬ともに空調が良く効きますので節電効果があります。また、レジ周り、厨房にはゆとりがあって、従業員が働きやすいというメリットもあります。しかし、2002年度は、BOXユニット接続部分の床のタイルにひびが入るという問題が生じて、補修を行いました。八潮木曽根店はエコロユニット店舗の第2号店ですので、当初の設計段階では予測できなかった問題が発生したのは止むを得ないと考えています。ユニット工法は優れた工法だと思いますので、今後も改善を重ねていただき、より良い店舗作りを期待しています。

八潮木曽根店　オーナー　　篠宮　務

Q 部材・什器（じゅうき）って？

A 「什器」とは商品陳列棚など販売用の備品のことです。ただし照明や温度調整を必要としないものを指します。「部材」は建物や什器の部分品のことで、例えば内部壁の内装ボードや床の床材などです。



物流の取り組み／地震対策について

統合輸配送管理システム

統合輸配送管理システムとは、無線通信とGPS（全地球測位システム）を活用することによって、配送センターから店舗への配送状況をリアルタイムで把握するシステムです。2001年10月に導入を開始し、2002年2月に全国17ヵ所の配送センターへの導入を完了しました。現在、以下のような成果が得られています。

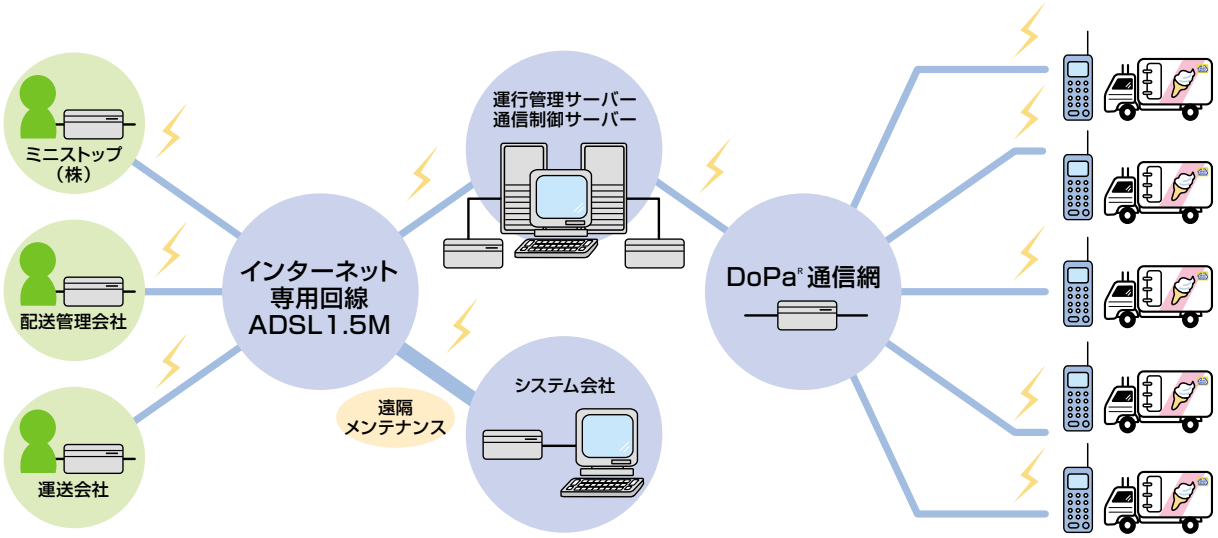
統合輸配送管理システム導入車

2001年度までの合計	224台
2002年度までの合計	247台

・車両1台1台のアイドリング状況や急ブレーキなどを定量的に把握し、ドライバーに対してアイドリングストップや安全運転などを指導しています。
・庫内温度状況をリアルタイムで把握し、適切な庫内温度を保って配送を行っています。
・最適な配送ルートを自動的に設定することで、CO_2排出量の削減にもつなげています。

●統合輸配送管理システムの仕組み

1. 配送トラックに取りつけられた温度コントローラーから車載端末に庫内温度データを吸い上げる
2. 車載端末からDoPa®（NTTドコモのパケット通信網）を経由してデータセンターのサーバーに1のデータを送信する
3. データセンターでデータ処理を行う
4. インターネットを通じて3のデータが配送センターへ送られる



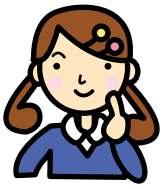
東京都のディーゼル車排出ガス規制に対応

東京都では環境確保条例により、2003年10月からディーゼル車の排出ガスに含まれる粒子状物質（PM）の排出基準が強化されました。2005年にはさらに基準が強化されますが、現在ミニストップが使用しているディーゼル車は、2005年に予定されている基準値を下回る車両に入れ替えています。

また、1998年からCO_2排出量が少ない天然ガス（CNG）車の導入を始めています。

地震対策について

コンビニエンスストアは、今日「電気」「水道」「ガス」と同様に社会のライフラインの一つとして位置づけられ、地震などの大災害時には被災地の方に水・食料などの緊急生活物資を供給することが求められています。ミニストップでは、人命を最優先しながら、「店舗の安全性」「地域の安全性」「店舗運営の条件」などを考慮し、可能な限り店舗の営業を継続、あるいは再開していくために、「東海地震対策マニュアル」「店舗地震対応マニュアル」などを定め、地震対策本部を設置して加盟店をバックアップする体制を整備しました。



Q 東京都のディーゼル車排出ガス規制って？

A 東京都では粒子状物質（PM）や窒素酸化物（Nox）による大気汚染が深刻です。特にPMは発ガン性や花粉症などの健康被害が懸念されています。東京都はディーゼル車がこれらの汚染物質の発生に影響しているとして規制条例を定めました。条例で定めるPM排出基準を満たさないディーゼル車は、2003年10月から都内の運行が禁止されます。ただし、新車登録から7年間は規制適用の猶予期間となります。

教育・啓発

ミニストップ本部の環境教育

2002年度からパートタイマーなどを含む全従業員を対象に環境教育を始めました。

e-learning画面

e-learningによる環境教育を導入し、「ミニストップの環境に対する考え方」「温室効果ガスと京都議定書」「ごみ処理問題」「LCA（ライフサイクルアセスメント）」「ISO基礎知識」などの内容について、全従業員759名（出向者1名を除く）が受講を終了しました。この他に、新入社員向けの環境教育、EMS（環境マネジメントシステム）認定審査員の養成などを実施しています。

また、2003年度は「全ての従業員が環境・社会貢献目標を設定すること」を目標にしています。これまでも任意で目標設定をしていましたが、全員が自分の目標を持つことでさらに意識が高まると考えています。

全国43ヵ所で加盟店勉強会を開催

ミニストップでは、加盟店と本部とのコミュニケーションの促進、加盟店相互の交流、取り組み事例や成功事例の共有化などを目的として加盟店勉強会を開催しています。

初年度となる2002年度は全国43ヵ所で実施し、約30%の加盟店が参加しました。

商品開発についての話をはじめ、独自のサービスを行って地域の皆さまに喜ばれた事例の紹介など、活発な情報・意見交換が行われました。

勉強会の内容は全加盟店へもフィードバックし、チェーン全体でサービスの向上、改善につなげています。

加盟店勉強会での意見交換

加盟店への環境教育・啓発

毎年春と秋の年2回、加盟店を対象に開催している商品売場説明会では、ミニストップの環境への取り組みを伝え、減農薬栽培米などの環境配慮型商品や省エネルギー対策などを紹介しています。2002年度は、「環境・地域と共生し、お客さまから支持される店舗作り」「食の安全性の追求」「地域での社会活動の推進」などのミニストップの方針について、社長から加盟店の方々に直接お話して理解を深めてもらいました。

社長が加盟店に対して説明

また、新規加盟店のオーナートレーニングにおいて環境法規、社会活動に関する学習を実施するとともに、全店舗に配布する「ミニストップメイト」*を通じて、環境・社会活動の情報提供も行っています。

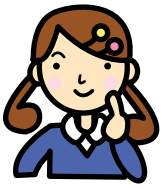
＊「ミニストップメイト」は本部と加盟店を結ぶ広報誌です。

フレンドリーキャンペーン

ミニストップの経営理念は、お客さまに「健康」「安心」「便利」をお届けすることです。そのためにはフレンドリーな接客、清潔な店舗、整った売場が基本です。そこで、ミニストップでは全店舗を対象に、外部調査員が、お客さまの視点から接客などのサービス、清潔さなどをチェックし、調査結果を各店舗にフィードバックして改善につなげる「フレンドリーキャンペーン」を実施しています。5年目となる2002年度から、基準に満たない店舗は再調査にチャレンジする仕組みを取り入れました。

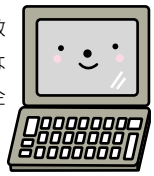
笑顔で接客することを心がけています

お客さま第一を心がけることで従業員の方々の意識が変わり、フレンドリーレベルが向上するなど、大きな成果が上がっています。



Q e-learning（イーラーニング）って

A 「イーラーニング」とは、パソコンやインターネットを利用した教育・学習のことです。ウェブサイトにアクセスすることで、好きな時に自分のペースで学ぶことができます。最近は英会話学校や企業の研修などで利用されることが増えてきました。
資料を配布する必要がないので紙資源の節約にもなります。



社会活動

イオン1%クラブを通じた環境・社会活動

ミニストップはイオン1%クラブを通じて「環境保全活動」「国際的な文化・人材の交流」「地域の文化・社会振興」「その他の寄付・事業」の活動の支援を推進しています。イオン1%クラブは1989年に設立され、イオン各社内の優良企業により構成され、各社の税引き前利益の1%を活動支援に充てています。また、イオン1%クラブからの寄付を通じて、(財)イオン環境財団の事業も支援しています。

イオン1%クラブ　2002年度主な事業内容

活動名	活動内容
日本とアジア・こどもエコ絵画交流展*	「環境保全」をテーマにしたアジア各国の子供たちの絵画交流展を実施しました。
★インドネシア・小さな大使*	青少年の国際的な相互理解と親交を深めることを目的にインドネシアの高校生を28名日本に招待しました。
★エコロジーミュージカル「瓶ヶ森の河童」公演	観劇後の親子の会話を通じて自然の大切さを考えるミュージカル。開催地の小学生がプロの劇団と一緒に演じます。
★カンボジア学校建設支援	2001年に始まり、毎年20校以上の学校を寄贈する3ヵ年事業です。開校式に従業員が参加しました。
★アンコール・ワット植樹活動	世界遺産であるアンコール・ワット周辺の植樹事業です。(2002年から3ヵ年計画)

＊はイオン環境財団との共催事業　★はミニストップ支援活動

(財)イオン環境財団　2002年度事業内容（イオン1%クラブとの共催事業は略）

活動名	活動内容
★森の再生・植樹活動	原生林や動物たちが復活することを願う植樹活動。2002年9月に実施され、従業員も参加しました。
★第12回助成先公募事業	地球環境、地域環境保全のために活動している団体・個人を支援するため、助成先を公募する事業です。

★はミニストップ支援活動

募金活動

お客さまからの募金によって、多くの活動を支援することができました。

方針
1. 店舗が地域とコミュニケーションをはかることを目的とした募金活動「花の輪運動」
2. イオン全体で行う募金活動「アフガニスタン復興支援募金」など

店頭募金一覧

募金名	期間	寄付先	募金金額
「地雷ではなく花をください。～対人地雷撤去キャンペーン～」	3／8～3／28	特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム	1,904,845円
アフガニスタン北部地震被災地支援店頭募金	3／29～4／14	財団法人　日本ユニセフ協会	1,266,503円
カンボジア学校建設支援募金	4／21～7／21	財団法人　日本ユニセフ協会	2,842,262円
アフガニスタン復興支援募金	9／27～10／27	特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム	3,154,155円
花の輪運動	通年	財団法人　花と緑の農芸財団	8,953,210円
	お客さまからの募金総合計金額		18,120,975円

募金箱をリニューアル

マーケティング本部
環境推進部
マネージャー
須藤　和幸

募金箱の素材を塩ビから再生ペットボトルに切り替えました。イオン共通仕様の募金箱として提案しました。

繰り返し使える募金箱

米国救済活動支援募金により、紺綬褒章を受章

受章式の様子

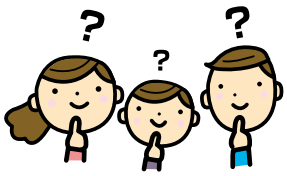
ミニストップは、米国救済活動支援募金により紺綬褒章を受章しました。2001年度にお客さまからお預かりした募金とミニストップ(株)からの拠出金、イオン1%クラブからの拠出金を併せて、日本赤十字社を通じて米国赤十字社と、「米国同時多発テロ事件殉職者子女育英募金のための経済界募金」へ寄付をいたしました。

ご協力ありがとうございました。

セーフティステーションの取り組み

現在、コンビニエンスストアには生活の利便性の提供だけでなく、社会的インフラとしての役割に期待が高まっています。(社)日本フランチャイズチェーン協会に加盟しているミニストップほかコンビニエンスストア各社は、警察庁からの要請を受けて「地域のセーフティステーション(生活安全拠点)」として、安全・安心の街づくり、青少年の健全育成を目的とした活動を行っていきます。

この取り組みは2003年3月1日から5月31日までの期間、神奈川県川崎市と佐賀県の全店舗で試験的に実施します。この結果を踏まえて、実施地域の拡大を検討していきます。



Q　インフラって？

A　「インフラストラクチャー」の略で、社会的生産基盤のことです。道路、空港、通信設備など産業や経済の基盤となるものや、情報通信網、学校、病院、下水道、公園といった生活環境施設などの新しい社会資本も含めて言われています。

環境マネジメントシステム

環境目標

環境管理責任者による自己評価
●●● 目標ほぼ達成
●● 目標達成までもう一息（50～80%）
● 目標未達（50%以下）

区分	2002年度環境目標	指　標	評価	掲載ページ	2003年度環境目標	指　標
商品	遺伝子組み換え食品の自主基準・意思決定内容を公表		●	P10	遺伝子組み換え食品の自主基準・意思決定内容の公表	2003年8月末公表
	ファーストフードの原材料・アレルゲン情報に関する情報公開		●	P10	ファーストフードの原材料・アレルゲン情報に関する情報を公開	2003年6月末公開
	使用している素材の産地を明確にして情報公開。今年度は米飯用の米が対象		●●	P10	使用している素材の産地を明確に公開	2003年8月末公開
	環境配慮型商品（グリーン商品）の「定番」登録を増やす	10アイテム	●●●	P11～12	2003年度は目標には設定いたしませんが、継続して実施します	
	環境配慮型資材の採用	5アイテム	●●	P11	環境配慮型資材の採用の増加	半期ごとに3アイテム採用
					減農薬栽培野菜（レタス・トマト）の使用	使用量100%
					販売中止商品の食材・資材の廃棄量削減	前年廃棄量より10%削減
店舗	消費電力の削減のための機材の導入	100店舗	●●	P13	省エネ機器によりCO_2を削減	1店舗あたりの前年度使用量より5%削減
					CO_2排出量調査基準を策定	2003年8月末策定
	厨房内冷凍庫のフロンを代替フロンに切り替え	200店舗	●●●	P13	指定フロン（R502）の撤廃	2003年度末までに100%撤廃
	生ごみの分別減量化の実験を開始	20店舗	●	P14	食品廃棄物のリサイクルの実験実施	実験店舗における再生利用率20%
					廃棄物排出量調査基準を策定	2003年8月末策定
					蛍光灯回収リサイクルシステムの導入	2003年度末までに導入
					レジ袋・割り箸などの資材使用を削減	年間客数比5%削減
	エコロユニット店舗を出店	40店舗	●●	P15	2003年度は目標には設定いたしませんが、継続して実施します	
	廃材マニフェスト管理の推進	90%導入	●●	—	廃材マニフェスト管理の推進	100%実施
					販促物・消耗品による環境負荷を低減	ATM販促物を1台あたり前年度廃棄重量5%削減
					店舗備品・消耗品のグリーン調達を推進	登録数5アイテム
物流	低公害ディーゼル車両への入れ替え	40台	●●●	P16	定温配送車を低公害ディーゼル車に入れ替え	入替率80%
					1店舗あたりの平均走行距離の短縮	前年度比1%削減
	統合輸配送管理システム導入車を増やす	232台	●●●	P16	2003年度は目標には設定いたしませんが、継続して実施します	
オフィス	文具のグリーン商品購入システムの利用拡大		●●	—	消耗品のグリーン購入比率の向上	購入金額全体の60%以上
	社内文書の電子化		●	—	決裁と決済の電子化促進による紙使用量の削減	前年度年間使用枚数より30%削減
	コピー用紙裏面利用の推進		●●●	—	コピー用紙の裏面利用等による紙使用量の削減	前年度年間使用枚数より10%削減
	節電の推進	月あたり前年比10%削減	●●	—	節電の推進	前年度年間電気使用量より10%削減
					社有車のガソリン使用量とCO_2排出量を削減	1台あたり前年度ガソリン使用量10%削減 CO_2排出量0.4%削減
教育・啓発					新規加盟店の環境教育を強化	オーナートレーニング受講者全員が修了基準をクリア
	店舗従業員向け環境教育・啓発ツールの作成・配布		●●	—	店舗従業員向け環境教育ツールの作成・配布による啓発活動の実施	環境基本教育の受講率100%
	SAの環境意識の向上を図る		●●●	P17	2003年度は目標には設定いたしませんが、継続して実施します	
	環境目標を社員全員の業績評価と連動		●●	P17	環境目標を社員全員の業績評価と連動	従業員が環境・社会貢献目標を設定率100%
	ISO14001を認証取得		●●●	P20	トップマネジメント教育の強化	CSRレクチャーを年2回実施
					内部監査員教育の強化	新規30名を養成。内部監査員の能力開発強化
コミュニケーション・社会活動	花の輪運動の寄贈校を増やす	400校	●●●	P1	花の輪運動の寄贈校増加	寄贈校500校
	カンボジア学校建設支援募金を実施して学校を寄贈	1校	●●●	P18	カンボジア学校建設支援募金を実施し、学校を寄贈	1校以上寄贈
	レジ袋に環境保全メッセージを印刷・発信		●●●	P14	2003年度は目標には設定いたしませんが、継続して実施します	
	NGO/NPOとのコラボレーション企画の立案・実行		●●●	—	2003年度は目標には設定いたしませんが、継続して実施します	

環境方針

ミニストップはフランチャイズシステムによるコンビニエンスストア事業の展開にあたり、環境汚染の予防を図るため下記方針を定めます。

●環境マネジメントシステムの構築と実践

環境マネジメントシステムを構築、実践し、循環型社会の実現に寄与致します。事業活動を通じて生じる環境に及ぼす影響を自主的に評価し環境目的・目標を設定し、継続的改善を図ります。

●法の遵守

環境保全に関する法規制、及びミニストップが同意する要求事項を遵守いたします。

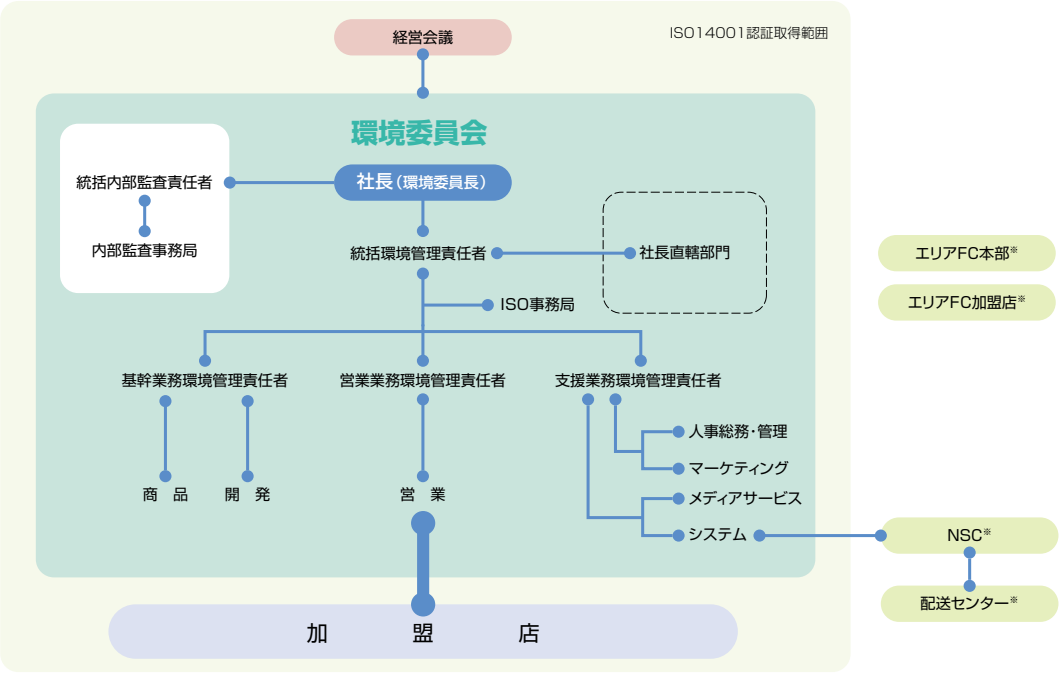
●全従業員の参加

環境教育を通じ、全従業員および加盟店の意識向上を図るとともに、環境保全活動を遂行できるよう啓発と支援を行います。

●方針の公開

この方針は広く一般に公開し、適切な情報提供につとめます。

ミニストップの体制



※NSC=ネットワークサービス株式会社（物流管理会社）
※エリアFC、NSC、配送センターはISO14001認証取得範囲に含みません。

ISO14001の認証取得

ミニストップでは以前から環境委員会を毎月開催し、環境に関する取り組みを推進してきました。さらに前進して継続的に改善していく仕組みを確立しようと、環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001を2003年3月27日に認証取得しました。

EMS 74120 ISO14001

EJ 00273 ISO14001

経営層の関与をより強固にしたPDCAサイクル*を社内に定着させ、現状の環境負荷を数値で把握して改善する仕組みを整えています。今後は各自の業務に環境保全活動を取り込んだ改善を進めます。

＊PDCAサイクル：Plan（計画）→Do（実施・運用）→Check（チェック・是正）→Act（経営層による見直し）による継続的改善活動。

コンプライアンス（法令遵守）について

法規制については日頃から認識し遵守しています。特に環境法令については所在地の条例も確実に調査して遵守するよう努めています。

しかし、2002年度は東海地区の1店舗で水質検査の結果が条例の基準をオーバーしてしまい、行政から改善注意を受けました。この店舗ではすぐに適切な対処を行いましたが、1件の注意でも厳重に受け止め、他店舗で同じ事のないよう自主的に状況を調べ、安全を確認しました。

なお、環境問題に関しての訴訟はありませんでした。

環境会計はウェブサイトでご覧いただけます。
http://www.ministop.co.jp/kan.html

第三者からのご意見

工場と店舗を視察して

社団法人　日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
理事　環境委員会委員長
辰巳　菊子氏

このたびは、減農薬栽培米を使用して弁当、おにぎりを製造されている(株)日本デリカフレッシュ東京工場と東京都内のミニストップの店舗を見学させていただきました。

ミニストップは、コンビニエンスストア業界では他社に先駆けて減農薬栽培米を導入され、すでに全量を切り替えておられることは高く評価できると考えます。東京工場では1日に約3〜4トンのお米を炊き上げ、ミニストップ全体では1年間に約1万トンの減農薬栽培米を使用されていますが、あらためて大変な量のお米だと思いました。消費者の信頼を確保していくために、減農薬栽培米の生産から販売にいたるまでの情報を公開できる体制をぜひ整備していただきたいと思います。

また、主婦の立場として、例えば「おにぎり一個ができるまでにはどれだけのエネルギーがかかっているのか」を知りたいと感じました。商品の生産から流通、販売、廃棄まで、ライフサイクル全体の中で定量的に環境負荷を把握され、負荷の大きいところから削減するなど、安全・安心な商品作りとともに、環境面の今後の取り組みに期待したいと思います。

店舗では、エコマーク認定商品など環境に配慮した商品の品揃えをしておられますが、さらに品目の拡大を目指していただきたいと思います。エコマークを知ってはいてもその認定商品を認知している消費者はまだまだ少ないのが現状ですから、例えば環境に配慮した商品にPOPを付けて目立たせるなど、お客さまが手に取って、気づくための工夫が望まれます。会社として環境に取り組むというコミットメントを店舗内に表示し、わかりやすくアピールすることも一つの方法でしょう。また、メーカーとコミュニケーションを図り、積極的に製品への環境配慮を求めていくことも小売業に求められる役割だと考えます。

ミニストップの店舗の大きな特徴はイートインコーナーがあることです。最近では食べ歩きが当たり前になり、コンビニの前に座り込んで飲食する若者の姿も多く見かけるようになりました。日本人のマナーの低下が気になりますが、イートインコーナーはマナー向上の面でも評価できます。高齢化社会を目前にして、高齢者向きの商品やサービスを提供することも、これからのコンビニエンスストアに求められる役割でしょう。一部の店舗(ホームデリ)で試みておられるお惣菜の量り売りは、高齢者や単身者に喜ばれるサービスだと感じました。

弁当工場の視察風景

環境に配慮すると同時に地域社会と共生し、だれもが安全で、安心できる将来のコンビニエンスストアの姿を期待しております。

第三者意見を受けて

専務取締役
人事総務・管理部門担当兼マーケティング部門担当
井上　雅之

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。減農薬栽培米の品質管理には万全を期しておりますが、現在さらにトレーサビリティーシステムを導入し、将来はお客さまがウェブサイトで産地などを検索できるように仕組み作りを進めております。

環境配慮型商品の品揃えについても拡大し、環境配慮型商品の基準作り、店頭でわかりやすくお見せする工夫なども進めていきます。また、地域のセーフティステーションとしてのトライアル、高齢者向けの商品の提供など、地域社会との共生に向けてできることから取り組みを始めております。今後コンビニエンスストアがどんな社会的な役割を担うことができるか、さらに可能性を探っていきたいと考えます。

今、持続可能な社会の実現に向けて、環境、社会、経済の三つの側面でバランスのとれた企業経営が求められています。その一つの取り組みとして、サステナビリティ(持続可能性)レポートの作成に向けてプロジェクトチームを発足させました。ミニストップはイオンの一員として、日々のいのちとくらしを「夢のある未来=AEON(イオン)」へ変えるために、これからも積極的に取り組みを進めていきます。

左から、須藤、川越、岡村、野口

編集後記

主にお客さまとのコミュニケーションツールになることを目指して報告書を編集しています。今回は、お客さまとの接点の基本となる加盟店のオーナーや従業員に誌面に登場してもらいました。また店舗における活動を中心に掲載し、お客さまから顔の見える報告書になるよう編集しました。お客さまとミニストップとの距離が以前より近くなることを期待しています。

さらに誌面に登場した方々と編集側とのやりとりの中で、報告書のもう一つの側面である店舗や従業員とのコミュニケーションも図れたと感じました。

「環境・社会報告書」を読まれた方が、店舗で内容を思い出していただけたら編集冥利につきます。

最後になりましたが、取材や資料提供にご協力いただいた皆さまに感謝の言葉を申し上げます、ありがとうございました。(S.O)

制作パートナー
薗田　綾子　(プロデューサー)
大野　千代美　(ディレクター)
山本　祥孝　(ディレクター)
梶原　達彰　(ライター)
仲村　賢興　(デザイナー)
和田　純　(デザイナー)
大田　安紗　(イラストレーター)
稲富　均　(フォトグラファー)
諸角　寿一　(フォトグラファー)
山脇　孝志　(フォトグラファー)
坂口　歴　(エディター)

イートインコーナー

会社概要

● 社名
ミニストップ株式会社

● 事業内容
コンビニエンスストアに店内加工ファーストフードを組み合わせたコンボストア「ミニストップ」のフランチャイズ方式によるコンビニエンスストア事業

● 代表者
代表取締役会長　陶山　勝
代表取締役社長　横尾　博

● 設立
1980年5月21日

● 資本金
74億91百万円

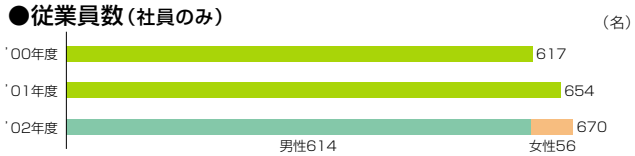
● 上場証券取引所
東京証券取引所市場第一部（1996年8月1日上場）

● 本社
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-1

● 本部事務所
〒261-8540　千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1

● 主要事務所および所在地
① 本部事務所（千葉県千葉市美浜区）
② 東京事務所（東京都千代田区）
③ 東北地区事務所（宮城県仙台市青葉区）
④ 東海地区事務所（愛知県名古屋市中村区）
⑤ 近畿地区事務所（大阪府大阪市中央区）

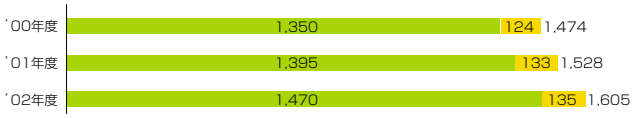
●従業員数（社員のみ）



●売上高（加盟店を含む）

●経常利益

●店舗数



※ 2003年2月末日現在。
※ 売上高と経常利益は単体ベースになります。

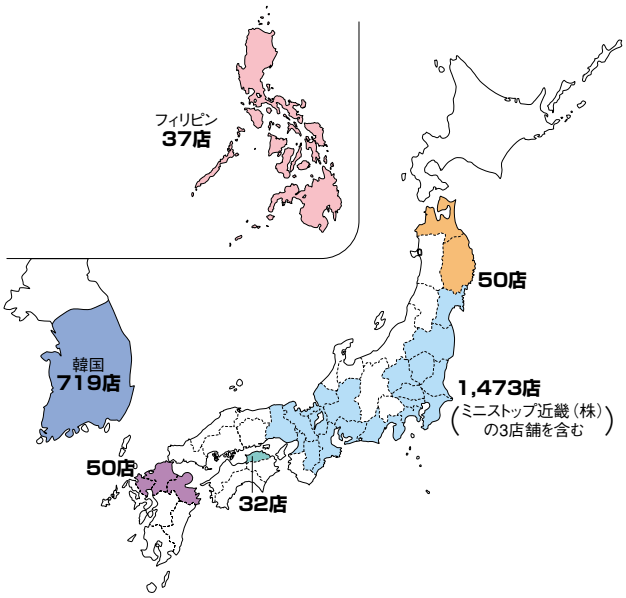
●店内加工ファーストフードメニュー

ソフトクリーム（バニラ）

フライドポテトL

かりかりまん（海鮮ふかひれ中華）

●店舗エリアマップ



- ミニストップ（株）
- ミニストップ近畿（株）*1
- エヌ・ビー・ジーエムエスネットワーク（株）
- ジェイアール四国エムエスネットワーク（株）
- エムエス九州（株）*2
- 大象流通（株）
- ロビンソンズ・コンビニエンス・ストアーズ・インク

※ 2003年2月末日現在。
＊1：ミニストップ近畿（株）は2003年3月1日にミニストップ（株）と合併しました。
＊2：エムエス九州（株）は、（株）ルマックスとミニストップ（株）が共同出資し、2002年6月1日に設立した連結子会社です。

表紙メッセージ

ミニストップの減農薬栽培米をつくってもらっている農家の方たちに会ってきました。みなさん笑顔がとても印象的で「大地と私たちが育てた自慢のお米をどうぞ」と愛情もたっぷりでした。

お客さまにはもちろんのこと、つくり手の農家の方や大地にも「健康」「安全」「安心」を届けたい。そんな思いからミニストップでは減農薬栽培米を導入しています。お客さま、そして職場や自然環境にも健康と安全、安心を優先することによって次世代の子供たちにつなげるサステナビリティ社会*の実現に貢献できると考えています。

＊サステナビリティ（Sustainability）社会：持続可能な社会。地球環境を守りながら経済的な豊かさも維持し、公正な社会を築くことで、将来にわたって発展しつづける社会のこと。

わたしたちが
つくっています

金山農業協同組合と生産者の皆さん

表紙・裏表紙写真
撮影日　2002年9月30日
撮影地　山形県最上郡金山町

◎お問い合わせ先／ミニストップ株式会社
マーケティング本部　環境推進部　川越靖史・須藤和幸・野口秀明・岡村幸代
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-1　神田橋安田ビル3F
TEL.03-3259-5284（ダイヤルイン）　FAX.03-3294-2051
http://www.ministop.co.jp/

本報告書は上記のインターネットホームページでもご覧いただくことができます。また、PDF形式のダウンロードもできます。
◎発行日　2003年5月　通算第4号　◎次回発行日は2004年5月を予定しています。　◎制作協力／株式会社クレアン

GPN Green Purchasing Network 印刷サービス
ミニストップは印刷サービスの
グリーン購入に取り組んでいます
Waterless Printing Naturally
PRINTED WITH SOYINK
R100

この報告書は製版をCTP（Computer to plate）化し、ポリエチレン・アセテートフィルムの使用を全廃しました。
これに伴いフィルム現像時のアルカリ性現像液も不要となりました。
印刷用紙はエコマーク認定の再生紙・古紙の利用100%（白色度85%）のOKマットコートグリーン100です。
また、大気汚染の原因となるVOC（揮発性有機化合物）の発生を減らすため、印刷インクは植物性の大豆油インキを使用しています。
印刷には、刷版現像時にアルカリ性現像液が不要で、インク転写時にイソプロピルアルコールなどを含む浸し水が不要な、水なし方式を採用しました。